

エコアクション21 環境活動レポート

2012年度

2011年11月～2012年10月

限りある資源を未来に 地球環境に貢献



株式会社コーセイジャパン

E-MAIL: kosei-japan@mvc.biglobe.ne.jp

URL: <http://kosei-jp.cdx.jp>

2013年2月15日 作成

環境方針

基本方針

株式会社コーセイジャパンは、電気工事業ならびに省電力商品の販売を通じて環境負荷の軽減に取り組み、低炭素社会の実現に貢献できるよう努力してまいります。

行動指針

- (1) 照明分野における省エネ知識を生かし、顧客への照明省エネ診断を積極的に行う。
- (2) 省電力商品（LED照明、高効率照明用安定器）の販売促進により環境負荷軽減に取り組む。
- (3) 環境負荷軽減商品（LED照明など）の企画・設計を積極的に行う。
- (4) 社内におけるゴミの分別の徹底、エネルギー使用量（電気・ガス・水道・ガソリン等）の抑制を行う。
- (5) 事務用品・工事材料等のグリーン購入を積極的に行う。
- (6) 環境関連法規等を遵守します。

2013年2月15日（改定）

株式会社コーセイジャパン

代表取締役 安陵範浩

1. 事業の概要

事業所名 株式会社コーセイジャパン

代表者名 安陵 範浩

所在地 本社 福岡県京都郡苅田町磯浜町1丁目16-9

環境管理責任者 安陵 範浩

連絡担当者名 安陵 範浩

連絡先 TEL : 093-436-6136

FAX : 093-436-6141

E-MAIL yasuok-n@mx.mesh.ne.jp

事業の内容 LED照明並びに高効率電子安定器の設計、製造、販売、施工

事業の規模

	単位	2010年度	2011年度	2012年度
環境負荷軽減商品の販売台数	台	16,418	16,487	41,821
売上高	百万円	71	90	183
従業員数	人	4	4	4
事業所面積	m ²	80	80	80

当社の事業年度 11月1日～翌年10月31日

(今回の活動レポートの対象期間は、2011年11月1日～2012年10月30日)

2. 組織図及び認証・登録範囲

全組織・全活動



3. 2012年度及び2013年度、中期環境目標

環境目標		単位	2009/11～ 2010/10 2010年(基準)	2011/11～ 2012/10 2012年度目標	2012/11～ 2013/10 2013年度目標	2013/11～ 2014/10 2014年度目標	2014/11～ 2015/10 2015年度目標	
基準データ	従業員数	人	4	4	5	5	5	
1	二酸化炭素排出量の削減	Kg-co2/ 人	3558	3382 (5%)	3309 (7%)	3202 (10%)	3131 (12%)	
2-1	一般廃棄物総排出量 (最終処分量)	Kg/ 人	2012年の最終処分量/人のデータを基準に計画を立てる。					
2-2	建設副資材のリサイクル率	%	2012年の再資源化率(%)のデータを基準に計画を立てる。					
3	総排水量 (給水量)	m ³ /人	19.75	18.50 (6%)	18.0 (9%)	17.5 (11%)	17.2 (13%)	
4	グリーン購入の推進	品目		1品目 (再生紙)	2品目	3品目	4品目	
5	環境負荷軽減 商品の販売	高効率電子 安定器	台	16418	12000	12000	12000	12000
		L E D照明	台	90	4000	10000	12000	14000

※電気の二酸化炭素係数は九電の21年度0.369を用いた。

4. 2013年度の環境活動計画

4-1. 二酸化炭素総排出量の7%削減

取組目標		活動項目	
1	電力使用量の7%削減	1	全照明器具にプルスイッチを設け、不要な場所の消灯をこまめに行う。
2	ガソリン使用量の7%削減	1	納品及び工事車両に軽貨物車を導入
		2	エコドライブおよび公共交通機関の利用促進
3	プロパンガス使用量の7%低減	1	給湯器等の効率使用

4-2. 廃棄物総排出量の削減

取組目標		活動項目	
1	廃棄物排出量の削減	1	梱包材のリサイクル化向上
2	紙使用量の削減	1	再生紙および裏紙の使用
3	リサイクル率の向上	2	分別の徹底、産業廃棄物のリサイクル向上

4-3. 総排水量の削減(6%)

取組目標		活動項目	
1	節水活動と雨水の有効活用	1	節水活動の促進
		2	雨水貯水槽の製作

4-4. グリーン購入の促進

取組目標		活動項目	
1	グリーン購入の向上	1	一般封筒のリサイクル品購入、名刺の再生紙検討

4-5. 環境負荷軽減商品の販売促進

取組目標		活動項目	
1	LED照明の販売台数向上	1	照明の省エネ診断を積極的に実施する
		2	展示会の積極的な出展や顧客訪問回数を増やす
		3	新製品の企画・設計(LED照明新機種開発)

5. 目標の実績

・2012年度の目標における実績は以下の通りであった。

環境目標		単位	2009/11～ 2010/10 2010年（基準）	2011/11～ 2012/10 2012年度目標	2011/11～ 2012/10 2012年度実績	目標の 達成	
基準データ	従業員数	人	4	4	4		
1	二酸化炭素排出量の削減	Kg-co2/ 人	3558	3382 (5%)	3469 (2.5%)	×	
	電気の使用量削減	Kwh/人	1580	1500 (5%)	1320 (16.5%)	○	
	ガソリンの使用量削減	ℓ/人	1268	1205 (5%)	1231 (2.9%)	×	
	灯油の使用量	ℓ/人	—	—	40	—	
	ガスの使用量削減	Kg/人	10.82	10.30 (5%)	8.25 (23.8%)	○	
2-1	一般廃棄物の排出量削減	Kg/ 人		注1	(基準) 70.65	—	
2-2	産業廃棄物のリサイクル率	%		注2	(基準) 1230	—	
3	総排水量（給水量）	m ³ /人	19.75	18.50 (6%)	16.25 (17.7%)	○	
4	グリーン購入の推進	品目		コピー用紙を 再生紙使用	再生紙の利用	○	
5	環境負荷軽減 商品の販売	高効率電子 安定器	台	16418	12000	20348	○
		LED照明	台	90	4000	8025	○

※電気の二酸化炭素係数は九電の21年度0.369を用いた。

注1：一般廃棄物総排出量は2012年の最終処分量/人のデータを基準に計画を立てる。

注2：建設副資材のリサイクル率は2012年の再資源化率（%）のデータを基準に計画を立てる。

6. 活動計画の取組結果

6-1. 二酸化炭素排出量の削減

(1) 電気使用量の削減

- ・削減目標を5%としたがこれを達成できた。(16.5%削減)

前回と同様、待機電力の削減や不要な照明の消灯、エアコンの温度設定管理により、電力消費量を抑えることができた。

(2) ガソリンの使用量削減

- ・削減目標を5%としたが、2.9%の削減に終わった。

省エネ製品の販売活動の増加に伴う、社用車での出張が増えたのが要因である。

(3) ガスの使用量削減

- ・削減目標を5%としたがこれを達成できた。(23.8%削減)
- 前回と同様、湯沸し頻度を抑え、ガス使用量の抑制に取り組んだ。

6-2. 廃棄物の排出量削減

(1) ペーパーレス化の実施

- ・コピー用紙の有効利用(裏紙使用や両面コピー)

(2) 産業廃棄物のリサイクル

- ・分別を徹底し再資源化に取り組む

6-3. 排出水量の削減

- ・削減目標を6%としたがこれを達成できた。(17.7%削減)
- 前回同様、節水への取り組みを強化したためである。

6-4. グリーン化商品の購入促進

(1) リサイクル率の向上

- ・コピー用紙の再生紙品購入を積極的に実施。
- ・リサイクルトナーの購入

6-5. 環境負荷軽減商品の販売

(1) 省エネ診断の実施

- ・顧客への照明設備の調査を実施、高効率照明(HFインバータやLED照明)への交換による省エネ効果を診断する業務を積極的に実施。

(2) 展示会の出展

- ・展示会への自社商品(省エネ照明)の出展回数を増やし、PR活動を実施。

(2011年11月と2012年10月の2回出展)

7. 次年度の活動計画の内容

7-1. 二酸化炭素の排出量削減

2012年度はガソリンの使用量が目標値を下回る結果に終わった。

営業活動増加による結果である。

しかし、年度の後半にハイブリッドカーを購入したので、次年度からは燃費向上による削減が期待できる。

7-2. 産業廃棄物の削減

本年度は産業廃棄物の記録作成を行ったので、次年度より一般廃棄物の最終処分量を5%削減、産業廃棄物の再資源化率を5%向上するように取り組みたい。

7-3. グリーン購入の推進

本年度はコピー用紙の再生紙利用とリサイクルトナーの購入に取り組んだ。

次年度以降は封筒、名刺等の再生紙利用を計画的に行う。

8. 環境関連法規等への違反、訴訟等の有無

環境関連法の遵守状況をチェックの結果、違反はありませんでした。

尚、関係当局よりの違反の指摘、利害関係者からの訴訟等も過去16年間ありません。

9. 代表者による全体評価の見直しの結果

〔評価〕

環境経営システムが有効に機能しているか	廃棄物の量や電気・ガス・ガソリンの使用量を記録しているが、管理担当者が昨年末に退職した。後任者への引き継ぎをしっかりと行い、これまでの記録方法に問題がなかったかも検討する。
環境への取組は適切に実施されているか	試行期間からの問題点であったガソリン使用量の低減が徐々に達成できてきた。低燃費車の購入による効果が高いと判断する。

〔見直し〕

環境方針変更の必要性	本業は製品の企画設計・販売で、電気工事業は兼業的な売り上げではない。よって日常的に工事に従事していないので、電気工事に伴う廃材の抑制を撤廃し、環境負荷商品の新規開発に変更する。
環境目標変更の必要性	なし
環境活動計画変更の必要性	なし
環境経営システム等変更の必要性	なし

〔総評〕

<p>本年度は環境負荷軽減商品の販売が好調であった。</p> <p>これに伴いガソリン使用量の削減が目標を達成できなかったり、産業廃棄物の発生量も予想以上に増えた。</p> <p>ただし、社内での電気・ガス・水道の使用量は前回同様、削減が達成された。</p> <p>次年度からは低燃費車導入によるガソリン使用量の低減や、廃棄物の再資源化をより強化していきたい。</p>
--

2013年2月15日

株式会社コーセイジャパン

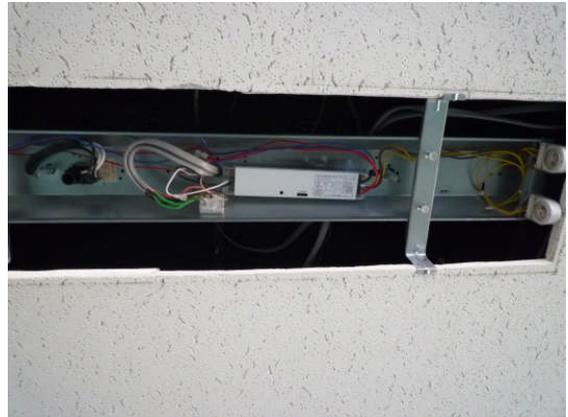
代表取締役 安陵 範浩

10. その他（エコアクション活動写真）

(1) 環境負荷軽減商品の施工工事（高効率照明用安定器）

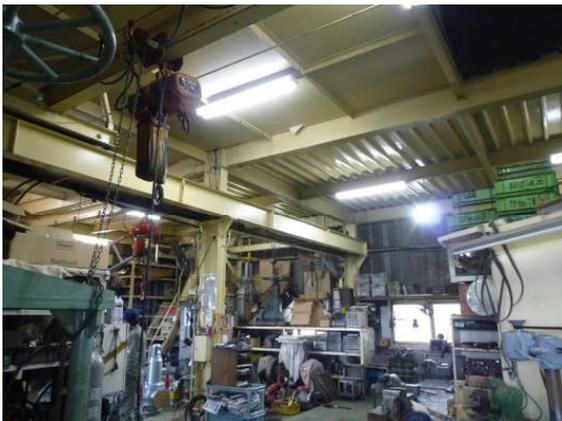


工事風景



高効率照明用安定器

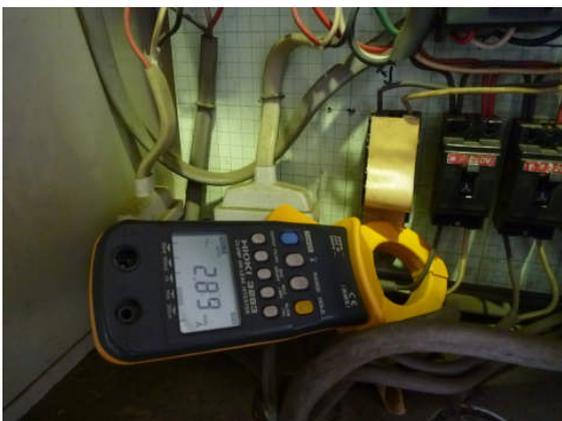
(2) 環境負荷軽減商品の施工工事（LED照明）



施工後の風景



水銀灯 400W→LED 照明 50W



施工前の電流値測定



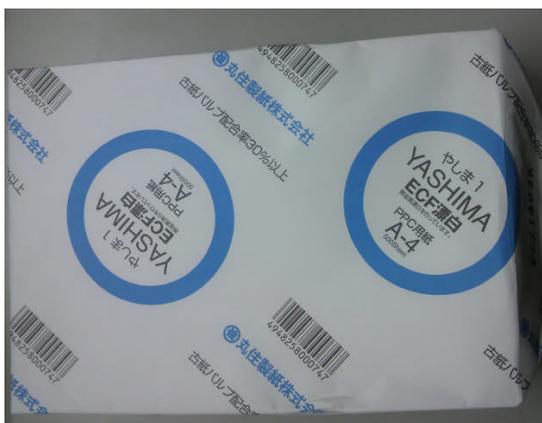
施工後の電流値測定

(3) 展示会の出展 (LED照明)



(中小企業テクノフェア IN 九州 2012)

(4) グリーン購入・低燃費車の導入



コピー用紙の再生紙利用



ハイブリッド車購入 (2012年7月)